

# はじめての古文書講座

## 其の一 変体仮名へんたいがなについて

「おさかなづくし」の(こたえ)で少し触れた変体仮名について、もう少し詳しくお話したいと思います。

学校での歴史の授業で、「平安時代へいあんじだいに漢字をもとに、かな文字がつくられた」と習ったと思いますが、その際、教科書には次のような例が挙げられていたのではないのでしょうか。

ひらがな  
安以字衣於  
あいうえお

途中のくずした字体(草書体)を簡略化していく過程は省略しました。

カタカナ  
阿位字江於  
↓  
アイウエオ

簡単にいうと、「漢字の草書体そうしよたい(大きくくずした字体)を簡略化かんりやくかしたものが『ひらがな』」、「漢字の一部分をとったものが『カタカナ』」というわけです。つまり、「あ」と発音していた漢字の「安」の草書体を簡略化して、「あ」という音で読むひらがなが生まれたのです。ところが、「あ」と読むひらがなは、「安」を元にした **あ** だけではなく、ほかにも「阿」や、「愛」、「亜」、「悪」の字をくずし、簡略化したものがありました。ですので、昔は、現在の私たちが使っている「あ」だけでなく、いろいろな形をした「あ」と読むひらがなが存在していたのです。

阿ア 愛愛 亜亜 悪悪